臨床発達心理士会千葉支部

News Letter ちば

2012 年 12 月 28 日　第６巻２号　　発行元：日本臨床発達心理士会千葉支部

目次

１．巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
２．2012 年度 3 回研修会のお知らせ　・・・・・1-2
３．2012 年度　第 2 回研修会報告　・・・・・・2-3
４．地域情報交換会の報告・・・・・・・・・・・3
５．私の職場紹介・・・・・・・・・・・・・・・ 4
６．事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・4

巻頭言

鈴木彰典

（第９回全国大会事務局長、富里特別支援学校）

来年の全国大会が千葉で開催されます！！

すでに千葉支部ＨＰや一斉配信メールでもお知らせしているとおり、日本臨床発達心理士会・第９回全国大会が、２０１３年９月１５日(日)と１６日(月)の二日間、千葉大学西千葉キャンパスを会場に開催されることとなりました。

来年の１月に全会員に案内の発送、ＨＰ上から申込みの受付が始まります。千葉支部の皆様には、一足早く企画の準備状況をお知らせします。

映画でいえば予告編、「撮影快調！乞うご期待」といったところでしょうか。

大会のテーマは「未来につながる・世代をつなげる・地域でつながる生涯発達～臨床発達心理学の可能性」です。

人が地域の中でその人らしくより豊かに生きていくために、また、人の生涯発達を支援するために、機関がつながること、世代を超えてつながること、地域と地域がつながること、そして人と人がつながることの意味と大切さについて、私たちは日々の実践の中で、また、震災や原発事故といった困難な状況の中で実感してきました。

今大会では、この「つながる・つなげる」をキーワードに、臨床発達心理学の可能性、臨床発達心理士の役割について、「未来につながる」可能性を感じられる全国大会にしたいと考えています。

記念講演(一般公開)は、淑徳大学の柏女霊峰先生による「子ども家庭福祉の動向と臨床発達心理士の可能性」です。

基調シンポジウムは、「世代をつなげる生涯発達～社会性の発達を中心に」のテーマで各世代の支援関係者からの話題提供を中心に行います。

準備委員会企画のシンポジウムとして、千葉県富里市の地域支援システムについてと、全国３地域(北海道、福島県相馬地区、東京都葛飾区)から「地域でのつながる支援」について、２つのシンポジウムを企画しています。

現在、中澤潤先生(千葉大学)を委員長とし、準備委員会で準備を進めていますが、当日の運営にはさらに多くのスタッフが必要になります。

近くなりましたらスタッフの募集をいたしますので、千葉支部の皆様にはぜひご協力をお願いいたします。スタッフとしての参加には、何と！！参加費(事前申込みは１０,０００円、当日参加は１３,０００円)が免除されます。

皆様、来年の９月１５日－１６日は予定を入れないようにしておいてくださいね。

＜2012 年度　千葉支部　第 3 回資格更新研修会＞

日時：2013 年 2 月 10 日（日）9:30～12:30　（受付開始：9:00～）

会場：千葉大学西千葉キャンパス（教育学部　1 号館 1 階大会議室）

ＪＲ西千葉駅より徒歩８分、京成みどり台駅より徒歩７分、

〇学内への車の乗り入れはできません。

〇必ず正門よりお入りください。正面からはいって、左に曲がり道なりに進みます。

付属小学校（その道の左側にあります）の道を挟んで、右側の建物です。

主　催：日本臨床発達心理士会千葉支部

テーマ：**「世代をつなげる・地域でつながる・人と人をつなげる－富里市の地域支援システム」**

話　題　提　供：　多胡　裕康（富里特別支援学校 特別支援教育コーディネーター）

松川　節理子（富里市保健センター 心理相談員）

滝口　直美（富里市教育委員会 心理相談員）

鈴木　彰典（富里特別支援学校 地域支援担当）

コメンテーター：　長崎　勤（筑波大学）

司　　会：　松浦　俊弥（野田特別支援学校）

―ポイント：1 ポイント、資料代 1000 円―

有資格者のみの研修会です。申し込みの必要はありません。

２．2012 年度第 3 回研修のおしらせ

○日時：2013 年 2 月 10 日(日)
9 時 30 分～12 時 30 分　　＊9 時受付開始
○会場:千葉大学西千葉キャンパス
（教育学部1号館大会議室）
○テーマ　「世代をつなげる･地域でつながる･人と人をつなげるー富里市の地域支援システム」
○企画趣旨
乳幼児期､学齢期から成人までの支援のために全国の各地域において、地域の特色を生かした連携による支援システムが作られている。
富里市では、保健センター、教育委員会、学校など市の支援機関と特別支援学校、福祉関係の機関との連携が様々な形で進められ、その連携に臨床発達心理士が深く関わっている。また、継続した支援のためのツールとして「ライフサポートファイル」の取り組みが進められている。今回の研修会では、富里市の現状、地域性、支援のリソース等について紹介し、各世代、各機関での支援と連携に関わっている会員から「世代をつなげる・地域でつながる」支援の現状、成果、課題について話題提供する。
富里市の取り組みを通して、人が地域の中でその人らしくより豊かに生きていくための、機関のつながり、世代を超えたつながり、人と人のつながりのあり方、地域支援システムの今後について考え、そして、来年度に千葉で開催される全国大会のテーマである「未来につながる・世代をつなげる・地域でつながる生涯発達～臨床発達心理学の可能性」について出席者の皆様とともに考える研修会としたい。
今回の研修会を生かし､さらに教育委員会の担当者や、富里市で幼児期から支援を受けて現在高校に在学している方の保護者も加えて、全国大会での企画シンポジウムで全国に富里市の取り組みを発信したいと考えている。

○内容
話題提供
多胡　裕康(富里特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)
～富里市の現状、支援のリソース、自立支援協議会等について
松川　節理子(富里市保健センター 心理相談員)
～乳幼児健診、その後のフォローアップ等の支援について
滝口　直美(富里市教育委員会 心理相談員)
～学齢期の支援、心理相談、巡回相談等につい
鈴木　彰典(富里特別支援学校 地域支援担当)
～特別支援学校のセンターとしての役割と富里市との連携について

コメンテーター
長崎　勤 (筑波大学)
～人と人が新たな関係性によってつながる発達のあり方、支援のあり方、人と人をつなげる専門職としての臨床発達心理士の役割について～

司会
松浦　俊弥 (野田特別支援学校)
○ポイント：1ポイント（**ID カード、参加記録ノートを必ずご持参ください。**）
○参加費　1000円(当日会場でいただきます)
○有資格者のみの研修会です。申し込みの必要はありません。

＊2012 年度、第 3 回研修会(2 月)については、午前のみの開催となります。
午後については、日本臨床発達心理士会･2013 年度全国大会(千葉大会)の準備委員会とし、2013 年 9 月に予定している、千葉支部主催の全国大会の準備ための会議にあてさせていただきます。

３．2012 年度第 2 回研修会報告

＜午前の部１＞
『乳幼児の発達障害への気づきと支援』
○日時：2012 年 10 月 28 日（日）9：30～11：00
○場所：千葉大学西千葉キャンパス
○テーマ：発達における早期の気づきと支援
ー乳幼児健診票のみなおしの動きと健診項目の視点についてー
○講師：黒澤礼子（千葉支部育児保育支援分野・法政大学）
○概要：
発達障害を持つ、または疑われる子どもたちへの早期の気づきと支援はその後の発達経過や家庭環境にも大きく影響すると考えられます。その気づきから支援につなげるための具体的な方法として、ほとんどの親子と接点が持てる 1 歳 6 か月健診・3 歳児健診を最大限に生かすために、そこで用いられている健診票に焦点を当てた、千葉支部育児・保育支援分野グループのこれまでの研究経過の報告がありました。
昨年、黒澤先生が東京都 E 区の健診票の見直しの依頼を受けたことをきっかけに、これまでに収集した全国 28 箇所の市町の健診票や厚生労働省資料の健診票を参考に、保健センターの乳幼児健診やこども発達センターなどの現場で仕事をする臨床発達心理士が意見を出し合い、必要項目を検討し具体的な視点について話し合いました。その結果をまとめ、この研修では 1 歳 6 か月児・3 歳児健診票の質問項目の提案が出されました。質問項目は従来の基本分野を充実させたうえで、発達障害に関する項目が追加され、7 つの分野に分類されています。
この提案にふれたうえで、保健所・保健センターの役割の重要性や「支援は気づいたときにすぐ始める」ことの大切さもお話しされました。しかし、実態としては、療育施設の数、要診断までに至らない気になる子どもたちへの支援体制などは地域格差も大きく、早期の気づきとともにその後の支援体制を同時に考えていかなければならないことがわかりま

した。他にも既にある社会的資源としての保育園や幼稚園が、発達障害のある子どもたちにとってそのまま療育の場となり得ることや親にとっても精神面での支えとなる大切な場であることもお話しされました。保健センターが保育園や幼稚園と適切な連携を取るためには、やはり臨床発達心理士などが間にたって連携をすすめていくことが必要であることもわかりました。

今後どの地域でも発達障害への早期の気づきの視点がある程度均一化され、適切な支援へ結びつくことや支援体制や場作りに発展するために、今回の提案資料が、その一役を担うことへの期待が伺えました。（文責　松川節理子）

＜午前の部 2＞

○日時：2012 年 10 月 28 日（日）11:10～12:30
○場所：千葉大学西千葉キャンパス
○テーマ：「乳幼児の発達に関する、配慮すべき視点－１歳６か月健診・３歳児健診を中心に－」
○講師：秦野　悦子（白百合女子大学）
○概要：

秦野先生には、前段の育児・保育支援分野グループの健診票の見なおしに関する報告を受けてのお話を頂きました。先生のお話によりますと、優良児のみへの視点であった健診は、１９７０年代後半から精神発達遅滞を確認することなどを含めた健診へと変化し、内容としては同じ見方、同じ項目になってきていたが、90 年代に乳幼児健診の実施主体が市町村に委ねられ、その後地域の実情に合わせて健診内容が変わってきた経緯があるとのことでした。健診の現場で ASD（自閉症スペクトラム障害）児の見過ごしを行わないようにすることは、中々難しく、健診は健診項目のみを確認するのではなく、子どもをどのような視点で見ていくかについて取り組む姿勢が大切であることについてお話がありました。ASD 児の過半数は全般的発達に遅れがなく、従来の全般的発達スクリーニングだけでは早期発見が難しいが、1 歳 6 か月健診では、言語･認知面と運動面に加え、社会性の発達における問題も明らかになるとのお話がありました。対人的コミュニケーションの発達を見るポイントについては、ことばが出る前の社会的行動（共同注意や対人的関心など）に注意することが大切であるとのことでした。

早期の気づきにより､療育を経験したお子さんは、保育現場においても対応の手立てを見つけやすく、習慣的取り組みの中で身につけた力は生活の中で生きていき、早期支援を行う事で安定した親子関係が形成されます。

幼児期の保育、教育現場で抱える問題について、小学校入学時点で特別支援を必要とする子どもが相当数いること、また学校の巡回相談現場での調査から、発達障害の診断を受けた児童 120 名に関して乳幼児期の聞き取りを行った結果、対人関係のトラブルなどに加え、夜泣き、ひとり遊び、ゆびさしなしなどの気になる行動が見られたことが報告されたとのことです。

乳幼児健診においては､健診項目で見ると同時に、その項目の意味することを知っていることが大切であり、早く気づいて乳児期から丁寧に支援を行い関わることで、安定した親子関係を保つことができます。安定した親子関係が保てたケースは学校現場における問題に発展しないことが多いとのお話しもありました。

今回は専門職公開研修会であり、有資格のみでなく他職種の方々の参加を募ることが出来たこと、また現場で活かせる内容であったため今後の相談者やお子さんへの見方と対応について学ぶ良い機会となりました。（文責　齊藤順子）

４．地域情報交換会のお知らせ

＜東上総地域情報交換会＞

○日時：　12 月 15 日（土）　13:30～16:30
○会場：県立東金特別支援学校
○テーマ
「特別支援学校における地域と連携した防災教育」
　防災発信　防災交流　北之幸谷から二市四町へ
○講師：瀧川　猛（県立東金特別支援学校教諭）
○参加者：8 名
○概要：

東金特別支援学校は2011～2012年の２年間、内閣府の防災教育チャレンジプランの指定を受け、特別支援学校の防災教育のあり方について研究してきました。その成果を発表していただくとともに、講師の瀧川先生が生徒会役員の生徒と訪れた被災地の様子、被災地を見た生徒の思いなどを聞かせていただきました。具体的な実践として、「あたりまえ体操」の替え歌に地震発生時の体制や避難指示をおりこむ、避難場所で利用できるパーティション・パーティションに貼るピクトグラムを作る、防災安全マップを作るなど多彩な取り組みを教えていただきました。また、要援護者のための東金地域防災ユニバーサルネットワークを作り、特別支援学校からの情報発信を積極的に推進しているとのことでした。小中学校からの参加者から、自校の取り組みや課題について意見交換もでき、有意義な会となりました。

５．私の職場紹介

渡部奈穂美（我孫子市こども発達センター）

我孫子市は人口、約 13 万人、就学前のお子さんはそのうち 7 千人弱です。受理面接を経て、こども発達センターでサービスを提供し、経過を見ている児童数は年々､増加し､平成 24 年 9 月 30 日現在で 623 名です。発達センターの主な職員構成は、児童発達支援員 24 名､ケースワーカー1 名､理学療法士 2 名、作業療法士 2 名､心理相談員 8 名､言語聴覚士 3 名、保健師 1 名などです。

主な事業内容は、児童発達支援事業のほか、心理・発達相談や個別訓練、保育園･幼稚園での巡回相談、親子教室などです。また、我孫子市の大きな特徴としては、発達センターと保健センターの協働による親子への支援があり､1歳6か月児健診､3歳児健診、5歳児健診のほか、子育て相談に職員を派遣して相談業務を行っています。子育て相談は、育児相談や保健師による訪問指導の中で､運動発達､言語発達、情緒・行動面、親子関係などで相談が必要と思われる子どもとその家族に対して行います。

発達センター の利用者の内訳は､①児童発達相談所などで判定を受けた「障害児」②発達障害の特徴を有し、行動上の問題を呈している児童③発達障害の特徴を有し、現時点で社会的には概ね適応しているが、今後、行動上の問題を呈すると予測される児童です。利用者数が年々、増加しているのは、②・③の児童数が増加傾向にあるためと考えられます。また、発達センターが持つ機能の一つは「相談機能」であり､親のカウンセリング､制度利用の情報提供、家庭で起こるさまざまな問題の解決・調整などの役割を果たすことが、今後もますます重要になってくるほか、地域の支援を行い、親子を支える地域資源を育てていくことが必要になると思っています。

□□

８．事務局だより

＜第９回全国大会準備委員会＞

準備委員会では、鈴木事務局長を中心に着々と大会に向けた準備を進めています。記念講演をはじめ、基調シンポジウム、準備委員会企画による２つのシンポジウム、それぞれ千葉支部が研修のテーマとして扱ってきた生涯発達支援における縦と横のつながりをキーワードに企画しています。現在、１号通信、ポスターの作成や大会当日の運営等について準備が進行中です。東京ビックサイトで行われた第８回大会は、２日間で 1000 人を超える会員が参加しました。ベイエリアの夜景を観ながらの懇親会も大盛況。千葉大会でも東京のパワーに負けず頑張っていきたいと思います。

今回の東京大会では、５０名近い東京支部の会員が当日スタッフとして大会をサポートしていました。全員がポイントを取得できるようにしっかりシンポジウムや実践報告に参加できるよう工夫をしたようです。千葉大会でも、是非みなさんのお力をおかしください！ご協力よろしくお願いいたします。

＜研修会でポイントを取得するには＞

◯「ID カード」と「資格更新研修会参加記録ノート」をご持参下さい。予め、記録ノートの該当ページに、研修会タイトル・受講年月日・ポイント数を記入しておきます。研修会が始まる前に、会場入口の受付にノートの提出をお願いします。ノートは研修会終了後に返却しますので、忘れずに受け取ってお帰りください。

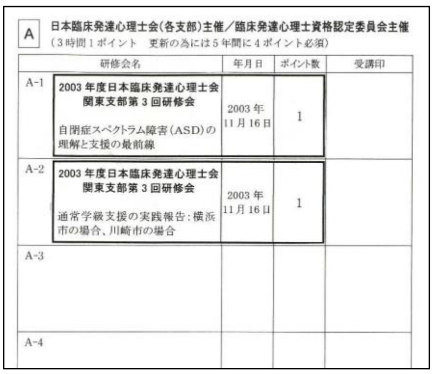
◯次の場合には、更新ポイントをお出しできませんので、ご注意ください。

- 記録ノートを忘れた場合
- 記録ノートに写真が貼られておらず、ID カードも忘れてしまい、本人確認ができない場合
- 研修会開始後、**１０分以上の遅刻**、あるいはノートを提出し忘れた場合

★日本臨床発達心理士会千葉支部　〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1214-3 中村晋方
FAX：047-482-6015　e-mail： nshin@otsuka-s.tsukuba.ac.jp

□□

（千葉支部　ＮＬ編集担当　早山文悟　）



A　日本臨床発達心理士会(各支部)主催／臨床発達心理士資格認定委員会主催
（3時間1ポイント　更新の為には5年間に4ポイント必須）

	研修会名	年月日	ポイント数	受講印
A-1	2003 年度日本臨床発達心理士会 関東支部第 3 回研修会 自閉症スペクトラム障害(ASD)の理解と支援の最前線	2003 年 11 月 16 日	1	
A-2	2003 年度日本臨床発達心理士会 関東支部第 3 回研修会 通常学級支援の実践報告:横浜市の場合、川崎市の場合	2003 年 11 月 16 日	1	
A-3				
A-4				

A4 サイズを B5 サイズに縮小コピーしてノートに貼ってください

2012 年度日本臨床発達心理士会 千葉支部第 3 回研修会 「世代をつなげる・地域でつながる・人と人をつなげるー富里市の地域支援システム」	2013 年 2 月 10 日	1